

主題 「確かな知識にもとづいて、豊かに話し合える子どもの育成について」

第1分科会 日本語教育

分会名 川村小学校分会

I はじめに

1 テーマ設定の理由

新学習指導要領には、国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と記している。自分の考えを表現するために、友だちの考えを理解するためには土台となる知識・技能の定着が必要になる。そして、豊かに話し合えるためには、生きて働く知識、技能の定着が、思考力・判断力・表現力の基礎となる。子どもたちが「問い」を解決するための知識・技能を確実に身につけ、それを使って根拠を明確にした話し合いをすることによって、「わかった」「できた」「伝わった」といった学ぶ「楽しさ」「喜び」を味わうことができるのである。こうした指導を、私たち教師が共通理解し、系統的に積み上げることが、すべての子どもたちに着実に力をつけていくことになると考えた。

前年度までの研究から、全職員が同じ視点で授業を見たり考えたり、競技したりすることができたこと、各単元の「つけたい力」を明確にしてしどうできたことなどの成果があった。課題としては、「つけたい力」を系統的に指導していくことと、深まる話し合いにしていけることが挙げられた。

そこで、研究教科を「国語科」とし、系統的な指導と、みんなで話し合うことを楽しめる、豊かに話し合える子どもをめざしてきた。

『 学 校 教 育 目 標 』

人権尊重の精神をもとに、自ら学び続ける意欲を持ち、たくましく生きることのできる子どもを育てる

『研究テーマ』 確かな知識にもとづいて、豊かに話し合える子どもの育成

学びに向かう力

人間性

思考・判断・表現力

「楽しかった」「もっと読みたい」

「次はどんなことを？」

「これってどんな意味？」

言葉の良さを感じ、読書をし、国語
を大切に伝え合おうとする。

「根拠」「理由付け」「主張」「そうい
うことか」「なるほど」「分かった」

「伝わった」

考える力・感じる力・想像する力・
伝え合う力

知識

言葉の働きや特徴、使い方を磨く。語彙を豊かにする。

文や文章の関係や、構成を理解する。

技能

日常生活に必要な国語の知識や技能

共通の土台

<研究主題>

確かな知識にもとづいて、豊かに話し合える子どもの育成

【授業】

2年1組 そうぞうしたことを音読げきであらわそう

「お手紙」

指導者 内田 洋祐 教諭

心にいつも「全員やってる？ 考えてる？ 楽しそう？」

4年1組 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

「ごんぎつね」

指導者 原田 郁未 教諭

心にいつも「ゆとり」

【今回の学び】 授業者から

- ・単元構成として、作者の他の作品を読んだことで、登場人物の人柄をおさえてから「お手紙」の学習に入れた。
- ・音読の積み重ね（系統的な指導）
- ・全員が同じ土台にのって話し合いができるように「単元構成」「既習を生かして考える」を大切にしたい。
- ・板書の構成や、誰もが取り組める活動（動作化や図に表すなど）の工夫

【共通理解】

○教材の解釈を

→指導案に「本教材と児童」の項を設け、授業者の捉えを明文化する。

○単元でつける力を考えた単元構成を

→単元計画を大切にしたい。単元でつけたい力・めざす姿を見据える。（TもCも）

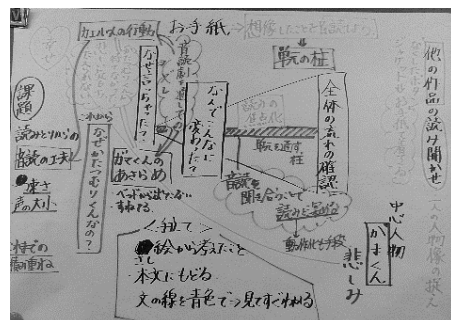
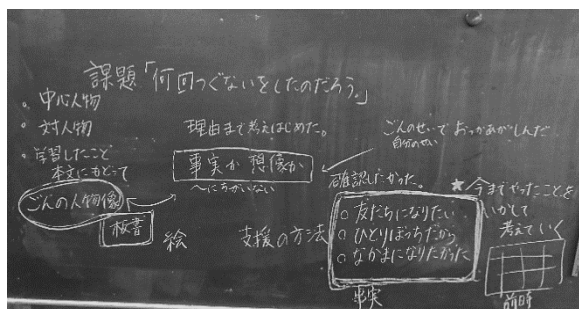
○各時間でつけたい知識の定着を

→教えることと考えさせることのメリハリをつける。

（一人学びやペア、グループ、全体の話し合いなど）

○全員が同じ土台で授業に参加できる手立て

→音読、掲示物、具体物、平行読書、語句の意味調べ、話し方、聴き方等
学級の実態や単元に応じて、具体的な手立てを



＜研究主題＞

確かな知識にもとづいて、豊かに話し合える子どもの育成

【授業】

5年2組 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

「たずねびと」

指導者 盧 映林 教諭

心にいつも「 やってみよう 」

3年2組 組み立てをとらえて、民話をしょうかいしよう

「三年とうげ」

指導者 田島 由貴 教諭

心にいつも「 自 由 」

【今回の学び】 授業者から

- ・前単元（物語教材の同じ学年、前学年での系統性）の大切さ
- ・単元計画を柔軟に（子どもの思考に合わせた展開を）

【共通理解】

○教材と単元について

→指導案に「単元について」の項を設け、児童の実態、授業者の教材の解釈、単元の構成について明文化する。

○考えさせることと、それまでの展開

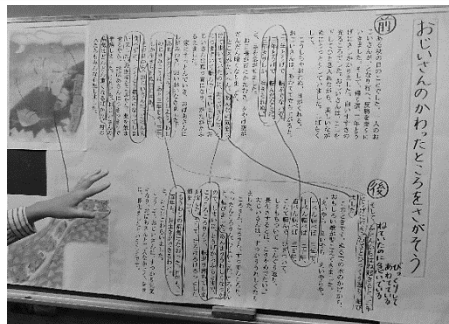
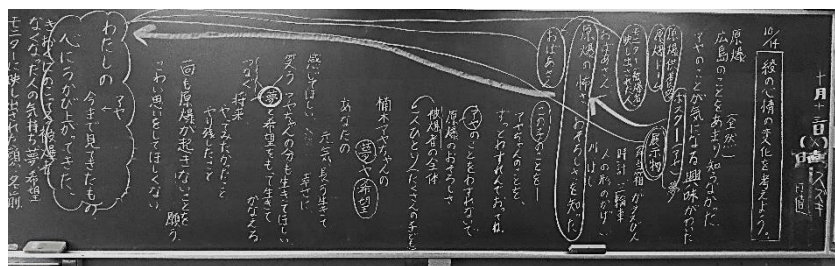
→本単元で「考えさせたいこと」（本時の主発問）は何かを見極める。（たずねびとでは「おばあさんの影響」）また、そこにつながる単元の構成を考える。（3年峠では、事前に「言い伝え」について調べさせていた。）

○「言葉」にこだわる

→本単元や各時間で、どの「言葉」に着目させるかを授業者が捉えておく。そして、その「言葉」を使うだけでなく、具体化し、登場人物の気持ちにより添い考えることで全員のそれぞれのイメージを共有化する。

○系統的な指導として

→「あらすじをとらえる」「人物像・人間関係」「音読」「話す・聞く力」などを物語の読み方、学習の仕方として学年に応じながら積み重ねていく。



<研究主題>

確かな知識にもとづいて、豊かに話し合える子どもの育成

【授業】

1年2組 おもいうかべながら よもう

「くじらぐも」

指導者 森 信行教諭

心にいつも「 ゆとりを！ 」

6年2組 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう

「海の命」

指導者 込山 卓郎 教諭

心にいつも「 子どもの興味を！ 」

【今回の学び】 授業者から

- ・表現力の育成は、日々の積み重ねからなりうる。
- ・授業だけでなく、日頃子どもとの関わりの中から語彙や表現を増やしていく。
- ・教師の役割
- ・子どもの思考に寄り添った発問

【共通理解】

○物語の世界に入り込める工夫

→特に低学年では、場所、格好、動作化などの環境をつくる。

○語彙を増やすため

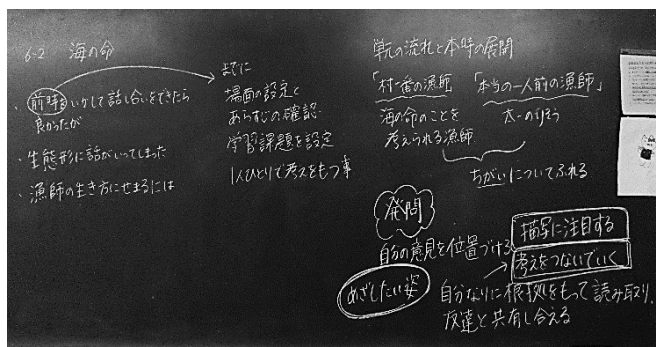
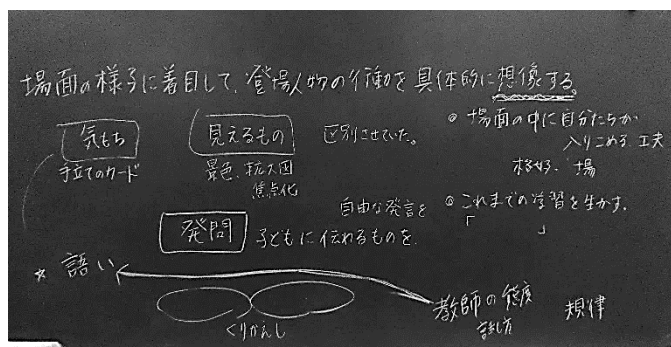
→自分の想像を試行錯誤させながら言語で表現させていく。

○6年生のめざす子どもの姿

→各自が、根拠をもち自分なりに想像を膨らませて読み、それを仲間と共有しながら、物語を楽しむ姿

○精選された発問

→何を考えさせるのか、どの言葉に着目させるのか、どこを深めるのか、意図のある発問と、そのタイミングを



Ⅲ 考察

前年度までの課題である、『「つけたい力」を系統的に指導していくことと、深まる話し合いにしていこうこと』について、授業実践の「前」と「後」で学年ごとや全教職員が「国語科でその学年の中で、必ず身につけさせたい力」を共通理解することは、校内研究会の場だけではなく、普段の学校生活の中で大切にすべきことだと感じた。

実際に子どもたちの姿を全教職員で確認すると、育ってきている部分と、今後必要になる力がよく見えてくる。情報交換を活発に行い、目指す児童の姿に向けて、必要なことを見極めて指導していきたい。

以上の点から学校全体で、「確かな知識にもとづいて、豊かに話し合える子どもの育成」を今後も進めていきたい。

